

# はばたき

2013. No. 74

## 挑 戦



私達の人の生き方そのものに……他人の思いに、暮らしに。  
寄り添うことを名目に向かい合う事を理由に入りこんでいく。  
私達は何を思い、感じ、進んでいるのか？  
若い力をより大きなものにしていく為にこれから私達はどう進んでいくのか？  
この笑顔を見よ!! 4月1日の笑顔を見よ! 絶やさない笑顔を。  
がんばれ若者、競え大久保学園!!

千日 清

# 挑 戦

## 自分の力を出し切る事

大久保学園 和久 尊彦



挑戦という言葉  
を考えると世界  
チャンピオンに挑  
戦する等の格上の  
相手に戦いを挑む  
事、世界新記録に

挑戦する等の困難な記録や物事に立ち向かう事であり、自分にとっての生きがいにも繋がる言葉だと思えます。自分の70%の力を出して目標を達成した事より、100%以上の力を出しきる瞬間に生きている実感が湧くのではないのでしょうか。

私達支援員は利用者の支援にしても作業にしても十分ベストを尽くしたと思ってしまう瞬間もあります。しかし、それで満足してはより良い支援、作業をする事ができません。工夫を重ね続けて限界の一つ上を常に挑戦する必要があると思えます。

より良いものを目指していくには自分が持っている全力の更に1つ上を出し切らなければ達成できません。たとえそれが他人にとっては半分のだとしても自分の力を出し切る事が次に繋がると思えます。私はこれからも限界の一步上を挑戦し続けていきます。

## 逆行に向かって

ふなばし工房 渡邊 優輝



私は、食品加工  
班に所属して今年  
で5年目になりま  
す。日々、作業に  
追われながらも利  
用者さんと向き合

い、一緒にパンやお菓子作りに励んでいます。

この4年間は年を重ねる度に責任が増してきています。大変と思う事が多くなりました。時には押し潰されそうになった事もあります。そんな時に思い出されるのが、一年目に受けた研修でした。その研修の一つに「9...1」と言う言葉がありました。その内容は、この支援員という仕事は、思い通りにならない事がたくさんあるという内容でした。初めに聞いた時はその1割という意味が分かりませんでした。作業を行う中で自然と気付くようになりました。それは日々、失敗する事はたくさんありますが、利用者さんが一生懸命作業に取り組んでいる姿や、以前は出来なかつた事が自分達の支援で出来るようになって、とても嬉しくやりがいを感じます。

「9...1」の割合は圧倒的に「1」の方が少ないですが、その「やりがい」の部分の厚くしていき、今後の支援の要にしていきたいです。

## 何事も続けていく大切さ

大久保学園 西澤 亮太



私は小学生の頃  
から12年間バスケ  
をしていました。  
しかし中学校にあ  
がる頃から試合で  
極度に緊張し、試

合に出場することが出来なくなりました。それでも諦めずにバスケットをやり続け何度も挫けそうになりました。引退試合にも出場することは出来ませんでした。最後に友人達が「お前が居てくれてほんとによかった。チームを今まで支えてくれてありがとう。」と言葉を掛けてくれた瞬間に涙がでました。今までチームに貢献出来ているのかと常に頭の中にあり辞めることも何度も考えていました。しかし友人達の支え、その言葉をもらった瞬間に自分の存在意義が分かり人の大切さ、継続する事の大切さを知りました。

そんな私が社会人になり縁があつて大久保学園に就職することになりました。挑戦する事、継続する事は自分のスキルを上げる為に必要不可欠な要素だと思えます。仕事において様々な事に挑戦し、人との振れ合いを大事にしていきたいと思えます。『続けていく事の大切さ。』このことが私にとっての挑戦です。

# 挑 戦

## 頑張る時はいつも今

大久保学園 原 舞子



私にとって挑戦とは毎日コツコツという事です。「逆境を「辛い事」「避けて通りたい事」と捉えるか、

あるいは「挑戦」というチャンスと捉えるか。逆境が自分にとってプラスのチャンスと捉えた時、それが経験となり自分自身を成長させる事が出来ると思います。支援員として仕事をしていく上でも挑戦という向上心を持ち続ける事は大切な事だと思います。利用者の生活支援をしていく中で、利用者に対して関心を持つことから利用者への理解が始まり、共感・受容といった事を経て利用者との信頼関係が出来ていきます。毎日利用者と接していく中で他愛もない話をしたり一緒に作業に取り組む事で利用者自身が好きな事や嫌いな事、小さな事でも毎日欠かさずコミュニケーションを取る事でその方にとってのベストな支援のあり方が何なのかが見えてきます。前向きに挑戦していく事がこの仕事をしていく上で大切な事だと思います。

## 積み重なっていくもの

ふなばし工房 金子真理恵



最初はみんな何も持っていない。どうやって知識、技術、感情等を身に付けているのだろうか。

私はバスケットボールが好きである。どのようにしてプレーを覚えていったのかを考えると、練習の積み重ねではないだろうか。成功や失敗、嬉しいや悔しいといった感情もすべて、繰り返し挑戦した結果から身に付いたものだと思っている。

仕事でも同じであり、初めは何もわからない状態で先輩に指導してもらいさまざまな事を学んでいく。作業の中の失敗や成功。私は失敗すると落ち込むけれど、同じ間違いを繰り返さない様意識し、さらに周囲への注意力も高める様にしている。又、他の人の失敗も自分の事の様に捉え注意すべき事を一緒に学び、積み重ねている。成功は自信と向上心へ繋がっている。

成功も失敗もすべて自分自身に積み重なっていくもの。しかし、それを意味のあるもの出来るかは人それぞれ。私はこれからもさまざまな場面で挑戦し、経験を積み重ねて成長していきたい。

## ベストを尽くした瞬間

みどり園 平澤 麻衣



私は4月から異動になったのですが、以前勤めていた職場での最後の夜勤の日です。(その時施設

内では胃腸炎が流行っていました)夜勤前日は休みだったのですが、何かを食べると吐き気でトイレにこもるというのを繰り返ししていました。嫌な予感もあり、一日中寝ていました。今の職場での最後の夜勤だったので、やり遂げたかったです。夜勤当日もギリギリまで寝て準備をしていたので、楽になりました。職場に行き、仕事をしているときは平気だったのですが、夜中に急に気持ち悪くなり、トイレに籠っていた時間がありました。が、しばらくすると落ち着き、無事朝を迎える事が出来ました。おそらくあの時胃腸炎になっていたのだと思いますが、気持ちで乗り切る事が出来ました。新しい職場になり、全てが挑戦であり、挑戦すれば何かが得られると信じて頑張りたいと思います。

### それぞれが未来に

### つなぐ1人として

東葛中部地区総合開発事務組合  
みどり園PFI事業

山田 一心

爽やかな光が射し風薫る五月、みどり園では新しい建物の建設が順調に進んでいます。

四月には立ち上げた鉄骨(柱や梁)と足場だけでしたが、上棟して屋根が出来上がり、土間コンクリートの打設、外壁、サッシの取り付け等が進み、今では二棟の居住棟(A・Bユニット)と二つの居住スペース(C・Dユニット)を備えた自立推進棟(二階建)が全容を現してきました。次の大きな区切りである九月中旬予定の建物共用開始に向けて熊谷組の皆さんを筆頭に協力企業の皆さんが力を合わせて建設してくれています。

大久保学園からは藤森PFI事業推進室長が中心となり力を注いできた現場。そこに、この四月よりフレッシュな新任職員10名を含む総勢17名の職員が加わりました。みどり園の先輩職員に「一から動きを教わりながら、利用者さんとの信頼関係を築くべく向き合う毎日です。何分まだ二ヶ月でご迷惑をおかけする事はかりですが、皆さんの思いに伝えられるよう職員一丸となって頑張っています。この先「新たな風」として躍動する職員の姿を紹介する機会を



ご期待ください。

また、新たな事業として、四月より我孫子市から委託を受け、あびこ相談支援センターをみどり園の一室を借りて開設しました。大内相談員は「住み慣れた地域で安心して暮らしていただけるように、人の繋がりを大きな力として頑張ります」と意気込みを語っています。

古い建物の解体、既に使用している建物の建設、維持・管理業務、給食業務、何より平成十七年頃に民営化の検討を始めた頃から、福祉関係のみならず各分野のプロが数百人この事業に携わっています。そして個々が結集した力は全て「利用者さんの生活を将来につなぐ」ためなのです。私自身、事業の持つ役割の大きさに身の引きしまる思っていると共に、新たに加わった一人として、微力ながら力を尽くしていこうと強く思うのです。(山田)

### ケアホーム参番館

完成!!



平成25年4月1日より原宿ホーム参番館が開所しました。参番館は大久保学園に入所されていた8名とグループホームを利用していた2名の合計10名の方が生活されています。

原宿ホームは家庭に近い安心した生活をコンセプトにしています。皆さんから「自分の部屋を持ち、自分だけの居場所が出きた。」「リビングで皆とテレビを見るのが楽しい。」「皆でごはんを食べるのが良い。」とよく聞きます。このように皆さんがホームを「自分の家」と思っていたいていく事が家庭的雰囲気につながっていくのだと思います。

一人ひとりのニーズは違いますが、皆さんの希望にそった生活を提供できることを目標として、職員一同力を合わせていきたいと思えます。(森川)

### ブルーランジェリー

### ふなばし工房 リニューアルオープン

「いらっしやいませ」・「ありがとうございます」店内に響き渡る利用者さんの明るく大きな声。この度ブルーランジェリーふなばし工房がリニューアルオープンしました。平成13年に滝不動店でベーカーリーカフェとして産声を上げ、平成19年にこの二和向台商店街に移転し6年が経過。少し手狭だった売り場をお客様がゆったり楽しみながら買い物できるように改装しました。木目が美しい木柱と石積み風の壁がとても印象的なお店です。店舗を構え11年が経ち滝不動店から働いている利用者さんは大ベテランの一人となりました。現在のメンバーで当時を知っているのは1名だけです。作り手が代っても、毎日利用者さんが溶岩石窯で心を込めて作るパンは「表面がパリパリで中はもちもちり」と評判です。笑顔でお迎えいたしますので、是非お立ち寄りください。(関)





多田さん(左)と三宅さん(右)

この春厚生労働省より  
二名の新任職員が四日間宿泊研修  
された時の感想を寄せて頂きました。

厚生労働省 多田 静香

本研修は3泊4日という短い期間でしたが、職員の方や利用者様とふれあう中で、様々なことを考え学んだ、忘れられないものとなりました。

大久保学園の素晴らしいところは、利用者様を一人の大人として扱うところだと感じます。働いてその対価をもらうという、人間であれば当たり前のことを強く意識して実践されているところ、そしてその意識が全職員に徹底されているところに、これからの福祉のあり方を見いだした気がいたしました。利用者様は、日々とてもいきいきと仕事をされています。一方で職員の方々は利用者様と対等に接し、時には褒め、時にはきちんと叱っておられます。その裏には、職員の方と利用者様が日々培ってこられた信頼関係があるのだと感じました。今後は利用者を守るには庇護の対象と見る福祉ではなく、この大久保学園のように、人間らしく生きるための手助けをするという意味での対等な福祉が求められるのではないのでしょうか。

またこの研修を通して、制度があつて人があるのではなく、まず人があつて制度があるのだということを再認識いたしました。多くの利用者様とお話しさせていただく中で、性別や年齢だけでなく、障害の程度、サービス利用の背景、個人の性格といったように、個人差があることを実感しました。そして職員の方々は、利用者様ひとりひとりと向き合い、それぞれの個性に合わせた対応をなさっています。たとえ制度上は障害者という枠組みに含まれるとしても、その実態は一人の人間であるということを、改めて認識いたしました。

今回の研修においては、利用者の目線、保護者の目線、現場で働く職員の目線、そして行政の目線と、様々な目線から物事を考えることができました。この4日間で感じたことを忘れずに、今後行政官としてより良い政策立案を行ってまいります。迷った時は、また大久保学園に足を運ばせていただきますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

厚生労働省 三宅 晴子

本研修にあたり、格別のご厚情を賜り心より御礼申し上げます。研修を通して様々なことを知り、考えましたが、ここでは所感の一部を申し上げます。

各施設において、職員に支えられながら利用者の皆様が発揮し真剣に作業活動に取り組んでいる姿やいきいきと生活を送っている姿を目にしました。利用者一人の大人として尊重し、「働くこと」を重視する方針が浸透していることや、ただ保護する、されるの関係ではなく、社会の一員として共生していく形を見ることができたように感じました。一方で、一人人として、行政に携わる者として、声を上げられない者に何を提供できるのだろうか、と無力感を覚える場面もありました。

また、強く認識しましたのは現場で働く職員の役割の重要性です。大久保学園の職員の方々は皆熱心ですばらしい方ばかりでした。物理的に重労働であるだけでなく、利用者一人一人と向かいあい、個々人の状態や能力、意欲に応じたプログラムを考え、提供することは簡単なことではありません。高齢化や障害特性の多様化で課題が山積し、優れた人材が求められる一方で、福祉を担う人手は足りないとの声を耳にしましたし、実際そのように感じました。特定の集団に負担が集中する状況は持続が危ぶまれます。熱心で有能な一人にまかせざる体制よりも、複数人で能力に応じて分かち合う体制が健全であり、「共生社会」の実現に必要なことだと考えます。

少子高齢化で将来の不透明性が増す中、福祉を始め厚生労働行政が豊かで且つ持続可能なものとなるよう、制度、政策を整えていく必要があります。一職員として、現場の声や声にならない想いを汲み取り、より良い制度、政策を立案実施していく所存です。政治・行政・現場の連携は重要ですので、今後ともご協力、ご鞭撻を頂戴できますようお願い申し上げます。

# 憶 記 る 地

## 介護から支援へ

大久保学園 神谷 健太



私は老人介護の分野で仕事を行おうと思い、介護福祉士養成の専門学校に通っていました。理由としては、ありきたりなもので祖母が介護サービスを利用するようになり身近な仕事として興味を持ったからです。

しかし実習等を通してみると自分の思い描いていたものとは大きく違いがありました。介護を行う事に苦はありませんでしたが、私は利用者の方と触れ合う時間、共に何かを行っていく等のコミュニケーションを求めています。必ず、必然的に就職活動でも悩む日々が続いていました。ある日、同じ専門学校の友人と話をしていた時に、知的障害者施設での実習の話を聞きました。私と同じく老人介護の分野を目指して専門学校に入った友人でしたが、実習はとも楽しかったと言っており、作業を一緒に行った様子も聞きました。そのような分野も良いかと思った時、ふと思いついたのが小学校の記憶でした。私の通っていた小学校では同じ地域の特別支援学校と交流を持っており、お互いの学校を歩き来してのお祭りや行事もありました。この頃は知的障害を持った児童という認識もなく、ただ友達として楽しく過ごしていただけでした。あの頃のように作業等を通してコミュニケーションが図れば、私の求めている場所なのではないかと思ひ、大久保学園を希望しました。

実際に就職し、私は光風みどり園に配属となり働き歩んできた日々は楽しく、共に働いているという感覚を強く持つ事が出来ました。作業の合間にはコミュニケーションを図りながら笑顔で過ごし、行事では共に楽しみながら参加することが出来ました。昨年からは大久保学園に配属となり、通所施設と入所施設との違いを感じながらも、根本は変わっていないと感じ一年が過ぎました。

今は大久保学園でも高齢の方々が増えており、専門学校時代に学んだ老人介護の分野での知識を支援に活かす頑張っていると思います。

## 笑顔が元気の源

大久保学園 渡邊 成留美



中学生の頃から心理カウンセラーを目指していた私は心理学の大学に進み、大学院へ進学しようと思っていました。

私が小学生の頃から母親が障害を持った児童と接する仕事をしていた為、小さい頃から人と接点を持つ仕事をしてきたが福祉の事を全く勉強していなかった私が福祉の道を決めたのは、大学時代に経験したアルバイトが大きなきっかけでした。大学三年生の時に夏休み、夏休み期間中学童保育のアルバイトを一カ月間体験しましたが、その中に自閉症の児童が二人居ました。他の児童が普段見慣れない私に興味を持って色々話しかけてくれる中、私に全く興味を持たない児童の姿を見てどうにか私に興味を持ってもらいたい、もつとこの子の事を知りたいと思うようになりました。その事が障害を持った方々の事を知りたい、福祉の仕事をしたくないと思ひ始めたきっかけでした。

初めて大久保学園の施設見学に参加した際、学園の中門を入った時に、利用者さんが私の元へ走り寄って来て挨拶を下さいました。中門からどん中へ足を踏み入れて行くと同じ時に多くの利用者さんが次から次へと挨拶をして下さったり、笑顔で寄って来て下さったのです。全く見慣れない私に満面の笑みで挨拶して下さった時の利用者さんの笑顔と大久保学園の開放感がとても素敵だと感じました。広い敷地内を制限される事無く自由に動き回り、挨拶を振りまいて下さる利用者の方の姿がとても印象強く残りました。

大久保学園で働き始めて今年で2年目ですが、出勤する度に利用者さんの元気な挨拶と笑顔に元気をもらっています。出勤する度に元気をもらえる職場は本当に素敵だと感じています。「渡邊さんに会うと元気になる」と言って頂ける職員を目指して、これからも頑張ろうと思います。



# それぞれの施設だより

## 大久保学園



今年度から私が所属する作業班の名称が生活介護班から創作班に変わり、活動場所も整備されたばかりの体育館で行うことになりました。

生活介護班に所属していた利用者だけを対象として活動の提供を実施していましたが、今年度からは、創作班以外の作業班の利用者も対象にウォーキングや余暇的な活動を実施していくことになりました。対象利用者の幅が広がったことで今までよりも多くの利用者の特性を理解して活動の提供を行う必要が出てきています。

新年度になり各班の職員も新しく変わり、職員が創作班の活動自体に慣れない中で他班と連携しながら他班の利用者に活動の提供をする戸惑いと難しさを感じています。まだまだスタートしたばかりで、本格的な活動の展開は出来ていませんが、課題をしっかりと把握して一つひとつクリアしていけるよう頑張っていきたいと思っています。(宮本)

## ふなばし工房

4月から一緒に働く新しい仲間を作業担当より紹介致します！

高野擁太郎さん (写真右)

今年の12月から食品加工班で活動をしており、日々の作業ではパン生地の手割やラスクのバター塗りの作業を行っています。長時間続くラスクのバター塗りの作業では丁寧に取組んでいます。今後は話せる友達を作りたいとおっしゃっていました。

原 雅典さん (写真中央)

平成25年4月より製袋班で活動しています。昨年9月より製袋班で活動していただいていたが、このたび正式に入所となりました。「元気に楽しく作業を頑張りたいと思いますので、これからもよろしくお願いします」と話しております。

村福 浩隆さん (写真左)

平成25年4月より農園芸班で活動しています。はじめは緊張していましたが、持ち前の面目さ、一生懸命さを活かして今では立派な農園芸班の一員です。「とにかく頑張りたいです」と話しております。

そしてもう一つ嬉しいお知らせがあります。ブルーランジェリーふなばし工房で活動していた梅津由貴さんが、



4月22日からマクドナルド西白井店への就労が決まりました。元気に働いている梅津さんを見に足を運んでみてはいかがでしょう。(武藤)

## 光風みどり園

桜の開花が例年よりも早く、また暴風雨の日が続く中、みどり園の新年度は何とか桜とともにスタートを切ることができました。そのありがたいうちに、



4月5日(金)には食堂のテーブルを園庭に出し、晴天のもとお花見をしながらお弁当を食べました。しば



らくすると園庭を囲む木々に多くの鳥のさえずりが聞こえたのは演出なのか、はたまた残食狙いなのか……。

4月より新たにみどり園の仲間となった佐野田健太さんと野戸奈穂子さん、永沼貴彬さん。早く、多くの仲間と楽しい時間や思い出を増やして下さいね。このように、みどり園では様々な活動風景や皆さんの写真を玄関に展示しておりますので、皆さんも来園された際には是非お立ち寄り下さい。(入澤)

## 地域生活支援センター

平成25年度、地域生活支援センターには新しい動きがありました。今までの就業・生活支援センター、相談事業、短期入所、グループホーム・ケアホームに加えて、通所班が所属する事になりました。通所班はリニユールした体育館に活動のスペースを移し、生活介護事業の他班と連携しながら、新しい活動を模索していきます。そして、今年度より通所班が使っていたスペースを地域生活支援センターと称し、新しい事務所として短期入所の受入れ、各種相談もそこで行います。また、就業・生活支援センターも加わり、そうすることで大久保学園の総合相談や短期入所の部門となり、今まで以上に密に連携することができるようになります。さらに、ケアホームでは原宿ホーム参番館の10名が新しい生活をスタートしています。

新年度を迎えるにあたり、準備に追われていましたが通所班、就業・生活支援センターも、それぞれが新しい場所でのスタートを切れるよう、日々の活動と並行しながら、着々と準備を進めています。今年のセンターに請うご期待!! (椰原)



# 風の詩

万人共通語である音楽で、キレイなスタジオで、練習するサクシード。

利用者も職員も1つになって暖かい私達の雰囲気伝えるぞ、一人でも多くの人に。 飯田 光洋

どんなに辛い事があっても皆の笑顔に救われています。利用者にとってかけがいのない存在になれる様に頑張ります。 山田 瞳

時間を掛けてコツコツと作っていく陶芸品。汗水たらしながら皆さんが作った陶器が地域の方に喜んでもらえる時、この仕事をやっていてよかった！と思います。地道な作業ですがこれからも頑張ってください！ 眞崎 翔吾

## 行事予定

### 3施設全体行事

- 7/6 3施設合同保護者会
- 9/14~15 ゆうあいピック  
ソフトボール大会

### 大久保学園

- 6/2~3 一泊旅行
- 6/16~17 一泊旅行
- 8/11~18 夏休み

### ふなばし工房

- 8/14~18 夏休み
- 9/8~9 一泊旅行
- 9/21 保護者会
- 9/29~30 一泊旅行

### 光風みどり園

- 8/14~18 夏休み
- 8/31 納涼祭

## 難関突破!

加賀美 裕

私は人と関わる仕事が好きで、福祉系の道を選択しました。学生時代より社会福祉士取得を目指して勉強をする事で、より専門的な知識とプロ意識を持って仕事に臨みたいと思っていました。一年に一度の試験に何度か失敗しましたが、社会人になつてからも試験を受け続けて最終的に合格する事が出来ました。周囲から応援を頂いたり、職場から色々配慮してもらって勉強がはかどったお陰だと思っています。このように人の支えがあつて合格に至るまで頑張れたのだと感謝しています。

社会福祉士を取得する過程で、私は専門的な知識を学んだだけでなく周囲の人の暖かさを感じる事が出来ました。まだまだ未熟な私ですが、少しでも人から頼りにしてもらえたら、そして暖かく支える事が出来る事が出来たらと思います。



## 寄付金

平成二十四年十二月一日  
〜平成二十五年五月三十一日

### 「一般」

- 中村香能子様
- 栢野 芳子様
- 青木 昭夫様
- 大久保学園後援会様
- (株)雅セレモノ様

ありがとうございました



今回、戦いを挑むと書いて「挑戦」という福祉には少し馴染みにくい言葉で特集を組んでみました。日頃写真の様に仕事に向き合っている支援員の奥底に潜んでいる熱い想いを表現してほしく、挑戦という言葉を選びました。新年度が始まり、これからも熱く挑戦する姿をご覧ください。(和久)

はばたき 二〇一三 七四号

発行/平成二十五年六月  
 発行所/社会福祉法人 大久保学園  
 TEL 〇四七(四五七)二四六二  
 FAX 〇四七(四五七)四〇六九  
 URL <http://www.okubogakuen.or.jp>  
 Mail [shienka@okubogakuen.or.jp](mailto:shienka@okubogakuen.or.jp)  
 編集/大久保学園 広報委員会  
 表題書/大久保学園長 中原 強